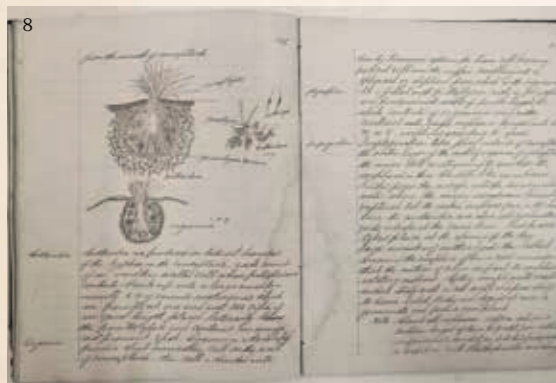
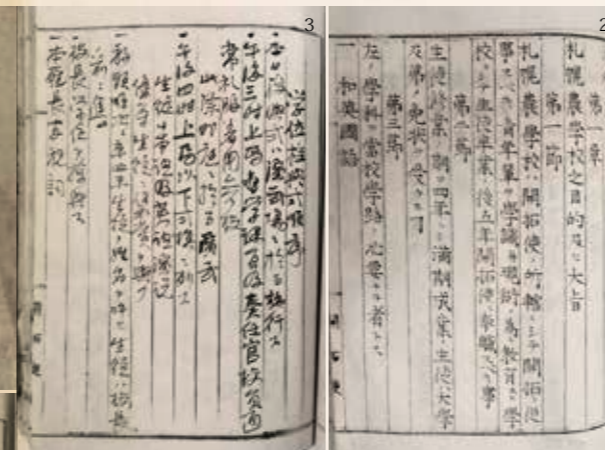
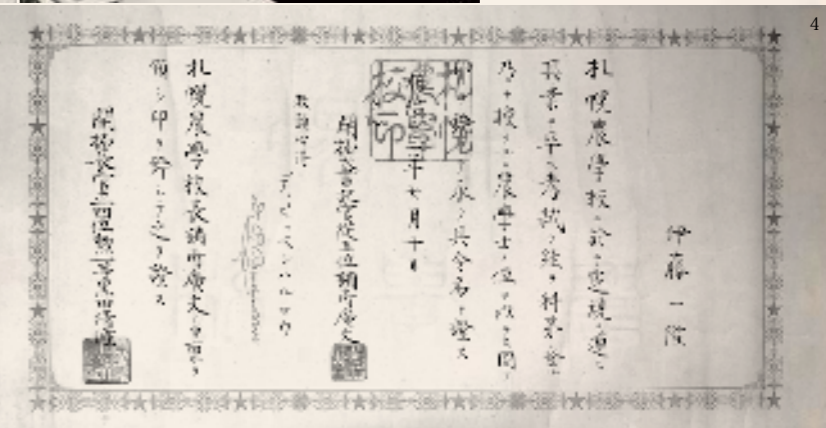


# 挑戦の140年

SCENE-4

## 1876-1907

### 「学士」称号授与



1. 植物学腊葉室で研究する宮部金吾教授 (1905年頃 大学文書館蔵)
2. 「学士」称号授与を定めた規則 (1876年 大学文書館蔵)
3. 第1回卒業式次第 (1880年 大学文書館蔵)
4. 第1期生 伊藤一隆の学士号授与証 (1880年 総長室蔵)
5. 佐藤昌介校長ほか日本人教授陣と第12期生 (1894年 植物園蔵)
6. 最後の外国人教師 A.A.ブリガム (1893年 大学文書館蔵)
7. 農学科カリキュラム (1891年 大学文書館蔵)
8. 植物学講義を記録した第14期生 平塚直治の受講ノート (1893年 西信子氏・西安信氏寄贈)
9. 外国人教師が講義を担当する時間割 (1880年 大学文書館蔵)
10. 畜産学実習室で勉強する第23期生 (1906年 川崎昭二氏寄贈)

### 北海道大学は最初の近代的な大学か？

「北海道大学は日本で最初の近代的な大学である」と説明がなされる場合がある。北海道大学では前身校の札幌農学校が開校した一八七六年を創基と位置付けており、法・理・文・医学部からなる東京大学が開学した一八七七年よりも一年早いためである。また、札幌農学校が日本で最初に卒業生への「学士」称号授与を定めたとの見解をその根拠にする場合もある。西洋では、専門的な学術を修めたことを証しする称号「Bachelor」(学士)を授与することが、近代的な大学に不可欠な要件であったことによる。

札幌農学校は開校直後の一八七六年九月に、「生徒修業ノ期ヲ四年トシ満期卒業ノ生徒ハ大学及第ノ免状ヲ受クルコト」と定めた。札幌農学校四年間の修業期間を終えると「大学及第ノ免状」(英語表記では「Bachelor of Science」)を授けるという規定である。そして、一八八〇年に第一回卒業式を開催し、第一期生一三名に「農学士」を授与した。

### 「学士」称号授与

しかし、歴史的事実に基づくならば、北海道大学を最初の「大学」と位置付けるのは少々難しい。例えば、札幌農学校開校に先立つこと一年以上前の一八七五

## 資格を具備すれども、あらざるの故を以て、「ユニヴァーシティー」と称することを得ず

年二月に東京開成学校(後の東京大学法・理・文学部)は規則中で卒業生に「其学力ニ応シ相当ノ学位称号ヲ載スル印票ヲ与フ」と、「Diploma」(ディプロマ=学位記)を与えるとして定めている。また、一八七六年七月に司法省法学校(東京大学法学部の前身)が卒業生など二五名に「法律学士」を授与したのが「学士」称号授与の最初であり、一八八〇年には東京大学が第一回卒業式を実施して卒業生に「法学士」、「医学士」を授与している。概ね、「学士」称号授与に関しては、東京大学の前身校が札幌農学校に先んじている。

一方、札幌農学校以外で「学士」称号授与を行なった学校は、後に東京大学(一八八六年に帝国大学と改称)へと統合されていく。従って、京都帝国大学が開学する一八九七年までは、「学士」称号を授与したのは、東京大学と札幌農学校のみであった。少なくとも、札幌農学校は東京大学と共に、「学士」称号授与に値する専門的な学術を教授し得た最初の高等教育機関の一つであったとは言えようである。

### 札幌農学校の学術水準

札幌農学校の開校時、初代教頭W・S・クラークの下、マサチューセッツ農科大学を参考にカリキュラム編成し、農学・化学等の専門学科の担当には外国人教師を充てた。クラークが札幌農学校にもた

らした学術水準は、開拓長官の黒田清隆や校長である調所広丈らが想定していた以上に高かった。外国人教師によって高度な専門学科を教授する体制は、第一期卒業生であった佐藤昌介が校長に就任するまで続いた。佐藤は、宮部金吾(植物学)・新渡戸稲造(農業経済学)・南鷹次郎(農学)といった第二期卒業生を教授陣の中心に据え、札幌農学校の学術水準を堅持していった。

一方、札幌農学校は官制上、一時、「学士」称号授与ができなくなった。このときは中央政府に働き掛け、例外として「学士」称号授与の継続の承認を得た。しかし、一八九五年に札幌農学校が北海道庁から文部省の管轄に移ると、法令上では「大学」ではなく、「技芸学校」、「実業学校」、「専門学校」などに分類された。「学士」称号授与に値する学術水準を認められながら、「大学」を名乗ることはできなかった。

## 「我札幌農学校は程度に至ては大学の未だ他の分科大学

### 制度ではなく実質

一八九八年に札幌農学校生が刊行した学校案内『札幌農学校』には、「官制に於て大学と称し得べきもの、東京帝国大学、京都帝国大学の二あるのみ。我札幌農学校は程度に至ては大学の資格を具備すれども、未だ他の分科大学あらざるの故を以て、「ユニヴァーシティー」と称することを得ず」と記している。学術水準において「大学」であるという認識は、札幌農学校関係者共通の矜持であった。制度上、札幌農学校が「大学」となるのは、東北帝国大学農科大学へと改編する一九〇七年である。

制度上「大学」でなかったという外的環境の中、札幌農学校が学術水準という実質において三〇年間にわたり「大学」であり続けたということ。札幌農学校の「学士」称号授与の意味は、最初の大学と言えるかといった議論ではなく、この点にあると言える。



1876年 8月 - 札幌農学校開校
9月 - 「札幌農学校規則」に「大学及第ノ免状」授与を規定
1880年 6月 - 第1回卒業式挙行、第1期生13名に「農学士」を授与
1886年 12月 - 札幌農学校官制で卒業証書の授与のみとなる
1889年 10月 - 卒業生への「学士」称号授与が認められる
1893年 11月 - 最後の外国人教師ブリガムが離任
1894年 4月 - 佐藤昌介が校長に就任
1895年 4月 - 北海道庁所管から、文部省直轄学校となる
1903年 3月 - 「専門学校令」に基づく専門学校となる
1907年 9月 - 東北帝国大学農科大学に改編

**大学文書館** だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives  
北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。